

日本原子力学会標準委員会 リスク専門部会 レベル2PRA 分科会

第8回会合議事要旨

日時:2015年2月26日(木) 14:00~18:30

場所:電力中央研究所 大手町本部 7階第4会議室

出席者:

委員:阿部(主査),成宮(副主査),中村(幹事),石川,小野田,楠木,高田,豊嶋,  
西村,橋本,濱崎,廣川,山本,喜多代理(松尾)14名出席

常時参加者:井上,宇井,片桐,野村,萩野,星,渡邊 7名出席

配布資料:

P10SC8-0:第8回レベル2PRA分科会議事次第

P10SC8-1:第7回レベル2PRA分科会議事録

P10SC8-2:解析コードの説明に関する改定の報告

P10SC8-3:レベル2PRA標準改定の状況(中間報告文案)

P10SC8-4-1:簡条1-3関係改定文案

P10SC8-4-2:簡条4-6関係改定文案

P10SC8-4-3:簡条7関係改定文案

P10SC8-4-4:簡条8関係改定文案

P10SC8-4-5:簡条9関係改定文案

P10SC8-4-6:簡条10関係改定文案

P10SC8-4-7:簡条11,12関係改定文案

P10SC8-4-8:簡条13関係改定文案

P10SC8-4-9:簡条14関係改定文案

P10SC8-5:今後の予定

議事要旨:

議事に先立ち,委員16名中13名出席(分科会開始時点)で定足数を満たしていることが報告された。

1) 前回分科会議事要旨確認(P10SC7-1)

中村幹事より,前回議事要旨について説明があり,指摘された議事録の誤字脱字を修正し正式版とすることで承認された。

## 2) リスク専門部会等への中間報告について (P10SC8-3)

中村幹事より、レベル 2PRA 標準改定の中間報告資料について説明があった。中間報告資料の記載に対して、記載の充実を図る箇所、誤字を修正すべき箇所等のコメントが出され、それらを反映したものをリスク専門部会資料とすることとなった。また、本日の分科会資料にある標準改定文案について、リスク専門部会委員へ配布し合わせてコメント依頼をすることとなった。

また本議題に関連して、今回の標準改定で考慮できない事項、課題等については解説にまとめるべきとの意見があり、今後の標準文案作成時に対応していくこととなった。

## 3) 今後の進め方 (P10SC8-5)

中村幹事より、SAMG 評価、原子炉建屋水素燃焼に関して本報告 (6 月) を目指して作業を進め、人間信頼性評価に関しては中長期的な取組とする旨、今後の作業方針が示された。

次回分科会は 4 月 14 日 13:30 からであり、部会、標準委員会への中間報告コメント対応等を実施する。また、次回分科会に向けて作業打合せを別途計画する旨連絡があった。

## 4) 解析コードの概要に関わる改定について (P10SC8-2)

片桐常時参加者より、解析コードの概要に関わる改定について説明があった。宇井常時参加者より、解析コードの version に関して、学会標準では記載された version しか認めないと受取られると、ユーザーが古い version のコードから離れられなくなるのではないかと指摘があり、標準文案においては、現状における version を記載したものであると分かる表現に修正することとなった。

## 5) 箇条 1 から箇条 3 関係改定文案について (P10SC8-4-1)

野村常時参加者より箇条 1 から箇条 3 関連の文案の説明がなされ、宇井常時参加者より実施基準に「目的」の記載を追加することについての分析が報告された。議論の結果、目的を記載することについては概ね合意が得られたものの、具体的な文案を元に検討が必要であるとの意見が多く出され、次回継続議論することとなった。また、目的及び用語の定義について、極力標準文案として作成した後に、過剰なものを削除していく方向で作業を進めることとなった。

## 6) 箇条 4 から箇条 6 関係改定文案について (P10SC8-4-2 及び補足)

豊嶋委員より、箇条 4 から箇条 6 関連の文案の説明がなされた。

成宮副主査よりプラントウォークダウンについて、具体的に何を確認するのか例示を追記することが望ましいとの意見があり、各箇条の記載の中でペーパードキュメントから得られない可能性がある情報を抽出することとなった。また、星常時参加者よりレベル 1.5PRA の定義を追加することが望ましいとの意見があり、附属書、解説、又は注記に記載

することとなった。

小野田委員より、現行標準の各箇条ぶら下がり段落に記載の説明文の扱いに関して、附属書にまとめて記載の充実を図るとともに、一般事項として本文規定にも記載すべきでとの提案があり、各箇条についてその方針で作業を進めることとなった。

#### 7) 箇条 7 関係改定文案について (P10SC8-4-3)

濱崎委員より、箇条 7 関連の文案について説明があった。文案中の略語について、箇条 3 で記載するか否かの仕分け整理についての議論があり、1~2 回しか登場しないものや、特定の附属書内でしか用いられない用語は、当該箇所に対応し、箇条 3 には記載しないとの整理で作業をすることとなった。

#### 8) 箇条 8 関係改定文案 (P10SC8-4-4)

楠木委員より、箇条 8 関連の文案について説明があった。楠木委員より附属書 XX1 に記載した関連設備の記載が現状正しいものであるか関係者に確認頂きたいとの要請があった。また、星常時参加者より原子炉（圧力）容器破損の用語の定義内容について確認があり、誤解を生まない修正案を作成することとなった。

#### 9) 箇条 9 関係改定文案 (P10SC8-4-5)

廣川委員より、箇条 9 関連の文案について説明があった。関連事項として、星常時参加者より格納容器破損の定義について確認があり、BWR 及び PWR を含めて文案を検討することとなった。

#### 10) 箇条 10 関係改定文案 (P10SC8-4-6)

橋本委員より、箇条 10 関係改定文案として、現行標準の箇条 9 から箇条 12 の構成を見直し、別案構成として箇条 10「格納容器イベントツリーの分岐確率の設定」、箇条 11「格納容器破損頻度の定量化」、箇条 12「放出カテゴリの分類及び発生頻度の定量化」及び箇条 13「放出カテゴリのソースターム解析」とする案が提示された。提示された案においては、箇条 11、箇条 12 及び箇条 13 各々に定量化・不確実さ解析・感度解析・解析の検証を実施することになり、石川委員よりソースターム解析など点推定で留める場合に使いづらさあるとの意見があった。標準構成については、結論がでず、橋本委員、石川委員及び山本委員で検討を継続することとなった。

#### 11) 箇条 11,12 関係改定文案 (P10SC8-4-7)

山本委員より、箇条 11 及び箇条 12 関係改定文案について説明があった。また、格納容器機能喪失と格納容器破損関連用語の考え方についての整理が示され、山本委員提案のとおり用語の定義を採用することとなった。

12) 箇条 13 関係改定文案 (P10SC8-4-8)

廣川委員より、箇条 13 関係改定文案について説明があった。成宮副主査より 4 ページに記載された「起因事象は地震」との表現は間違いであり、「起因となる事象が地震」であるとのコメントがあった。

13) 箇条 14 関係改定文案 (P10SC8-4-9)

野村常時参加者より、箇条 14 関係改定文案について説明があり、特にコメント等なく、引き続き記載案を作成することとなった。

以上